

校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和2年2月19日（水） 南日本新聞

本校のラグビー部が南日本新聞の「鹿児島国体 障スポ 2020 熱戦の舞台」に掲載されましたので紹介します。

鹿児島国体

障スポ

熱戦の舞台



合同チームで戦う薩摩中央高校の選手ら11月、さつま町のかぐや姫グラウンド

さつま町

ラグビーの町燃える

選手に優しい天然芝

緑鮮やかな天然芝のグラウンドが広がる。サッカーリーグのキャンプが開かれるほどの恵まれた環境で、高校生ラグビーにとっては、県総体などの試合や合宿で度々訪れるなじみ深いグラウンドだ。

さつま町田原の日本特殊陶業ラグビー部はトップキユウシュウBリーグで戦う社会人チーム。薩摩中央高校は前身の宮之城高時代、1974、79、81、86年の計4回、聖地花園へ出場した実績を持つ。最近では部員不足で合同チームだが、町民の競技への理解と親しみが深い。

町役場にも花園経験者が3人。81年に出場した町教育委員会員の宮里秀樹スポーツ振興係長(55)は「小柄な選手が大きな選手にタックルする熱いスポーツ。昨年のワイルドカップ日本大会の熱気を引き継ぎ盛り上げれば」と期待する。

会場にはタケノコや薩摩西郷梅、米など特産品を並べる予定だ。宮之城ラグビー協会の大迫昭蔵会長(73)は「天然芝は選手の体に優しい。ラグビーの町として一丸となり、もてなしたい」と誓った。

・歴史 2005年3月、宮之城町、鶴田町、薩摩町の3町が合併して誕生

・人口 2万5300人(2月1日現在)

・面積 303.90平方キロメートル